



自然と調和する石橋文化センター

秋映えスポット再発見

四季折々の花が咲き誇る久留米の名所・石橋文化センター。これからの季節は、バラが園内を彩り、紅葉、ケヤキ、イチョウが色づき始めます。秋のお薦めスポットを同センターの職員が紹介します。 ①石橋文化センター (☎ 0942・33・2271、FAX 0942・39・7837)

楽水亭の窓越しに見る景色はまるで一幅の絵のようです。店内は、久留米餅のタペストリーが飾られ、落ち着いた雰囲気。食事をしながら日本庭園を一望できます

バラのエキ斯塔っぷりのソフトクリーム。テークアウトの一番人気



約 400 品種 2,600 株のバラが開花します

23日祝

【ローズガーデンコンサート】
開催日10月31日(土)、11月1日(日)、3日(祝)、21日(土)、22日(日)

美術館の隣に「和のゾーン」があります。池や滝、梅林の周りに散策路を巡らした日本庭園で、正二郎氏が自ら構想したスポットです。耳納連山の山石も使用されています。真っ赤に染まった紅葉と3mの高さから流れる滝の水音は、どことなく異空間。鈴虫の鳴き声を聞きながら、ゆっくりとした時の流れを感じることができます。10月中旬から見頃を迎えるバラ園では、ガーデンコンサートを開催。秋風に乗る生演奏を楽しむことができます。

聴く 正二郎氏が愛した日本庭園



開園時にあった50mプールの飛び込み台

映え!!

ペリカン噴水が有名やけど、かっぱ噴水もある。朝イチに水を出す勢いはすごかよ〜

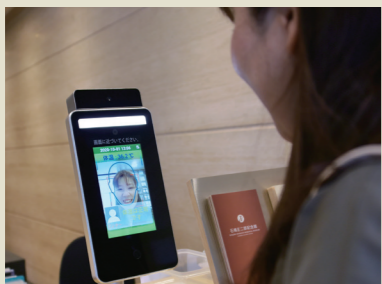


石橋文化センターの中心に位置し、象徴になっているのが、美術館です。昭和31年にプリチストンの創業者・石橋正二郎氏が同センターを寄贈した当初から、美術館は久留米市の文化芸術の拠点として、多くの皆さんに親しまれてきました。平成28年に石橋美術館から久留米市美術館へ。市美術館になって、これまで24回の展覧会を開催し、入館者は35万人を突破しました。さまざまな時代や国内外の美術作品と出合える場所です。石橋正二郎記念館では、郷土を愛し、自然を愛し、久留米を「楽しい文化都市」にしたいと願った正二郎氏の一生や同センターの歴史を学べます。

観る 名画と出会う美術館

コロナ対策して散策を

園内では人と人との距離にゆとりを持ってください。マスク着用、小まめな手洗いをお願いします。



美術館や記念館は、顔認証付き検温器などを導入し、非接触を進めています

「石橋文化センターホームページ」へ



詳しくはQRコード

記念館で正二郎氏の肉声が聞けます。美術やふるさとへの思いが伝わります



鳥類センターから来た白鳥。優雅に泳ぐ姿に癒やされます



映え!!



季節によって見せる表情が変わる「一丈の滝」。紅葉が色づく絶景です

星野村の抹茶を使った和パフェ。飲み物もセット



蒸し鶏にローズhipジャムソースを添えたバラ御膳。10月17日(土)から11月13日(日)まで。数量限定です



昭和46年に休憩所として完成した「楽水亭」は、平成18年にカフェ&ギャラリーショップにリニューアルしました。藍胎漆器や久留米餅などの地元の特産品を販売。地元産の食材を使った御膳やスイーツも提供しています。絵画をイメージしたミュージアムケーキセットも人気。テークアウトできるホットドッグやたい焼きを食べながら、散策するのもお薦めです。

食べる 久留米が凝縮 楽水亭

オススメは、来年度の子どもカレンダー。シールもついています



久留米文化振興会 松枝奈緒さん

えりすぐりのアートグッズや美術館オリジナルグッズを販売

ミュージアム ショップへGo

久留米文化振興会 合瀬健史さん

美術館内の休憩室から見える景色は、絵画そのもの

